

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

A

芸術祭協賛

シネマの冒険 闇と音楽1997

Silent Film Renaissance 1997

11月4日(火)ー11月15日(土)

料金(特別企画上映)＝一般810円 学生490円 小人350円

マイケル・フレンド講演会

Lecture by Michael Friend

11月1日(土) 午後1時～4時(予定)

入場無料

展示室(7階)

ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」

Soviet Film Posters in the Late Silent Era

11月4日(火)ー11月15日(土)／11月25日(火)ー12月25日(木)

1月6日(火)ー1月31日(土)

入場無料

●11月の休館日：日曜日・月曜日、11月18日(火)ー11月22日(土)

大ホール

定員＝大ホール300名

発券＝2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行ない、定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。
- 各回入替制です。

展示室

開室＝休館日以外の火曜日ー土曜日

(午前10時30分ー午後6時／入場は5時30分まで)

図書室(4階)

開室＝休館日、休映日、祝日、臨時休室日以外の火曜日ー金曜日

(午前10時30分ー午後6時／入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



1997

11

NFCカレンダー
97年11月号

大ホール 上映作品

芸術祭協賛

シネマの冒険 闇と音楽1997

Silent Film Renaissance 1997

京橋新館が開館した一昨年に、前年の企画「サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて」を引き継ぐ形で開催された「シネマの冒険 闇と音楽」は、無声映画の新しい魅力を引き出すものとして好評を博しました。シリーズ化された本企画は、昨年に続き今年も「シネマの冒険 闇と音楽1997(Silent Film Renaissance 1997)」と題してここに開催の運びとなります。昨年同様、5カ国から5本の作品を選んだ今回のプログラムは、フランク・キャブラの「陽気な踊子」を最新のデジタル技術を使って復元したプリントを本国以外では世界で初めて上映すること、小津安二郎の「非常線の女」にピアノ伴奏や弁士の語りを付けるという試みを行なうこと、ジャック・フェデーの大作「女郎蜘蛛」(小宮登美次郎コレクション)を弁士の語りで上映することなど、これまでに増して意欲的な企画になっています。個性的な無声映画の数々を、新しいプレゼンテーションのかたちとともにご堪能ください。

A-1 11/4(火) 6:30pm 11/5(水) 6:30pm 11/6(木) 6:30pm

陽気な踊子 The Matinee Idol

名匠フランク・キャブラの監督第7作(長篇としては6作目)。当時30歳を過ぎたばかりの彼は、コロンビア社の製作部門ヘッド、ハリー・コーンのあついで信頼を得て、無声・発声の端境期でもある1928年に7本のサイレント映画を発表しているが、これはその一つでベッシー・ラヴを主演に迎えている。田舎の大真面目な旅芸人一座がニューヨークに出て物笑いの種になるというプロットに、若い役者の恋がからむロマンティック・コメディで、「或る夜の出来事」(1934年)でアメリカのトーキー映画にスクリーン・コメディというジャンルを確立するキャブラが、それ以前の無声映画時代に発揮していた潑刺とした才気をそこかしこに感じることができるだろう。この映画は、一般には失われたものと長く信じられてきたが、シネマテーク・フランセーズが保管していたプリントを元に、昨年、米映画芸術科学アカデミー(AMPAS/アカデミー・フィルム・アーカイヴ)、ソニー・ピクチャーズエンタテインメントが協力し合って、最新のデジタル技術を用いて修復した。これは、アメリカにとってフランク・キャブラ生誕百年の1997年にふさわ

しい事業であるばかりでなく、ライブ・アクションの長篇映画としては世界で初めてフルデジタルの復元が行なわれたという点でも画期的なものといえよう(上映するのはデジタル・ドメインからトランスファーしなおした35mmフィルム)。当復元版の御披露目上映は、フランク・キャブラ生誕百年を記念して、本年1月10日にAMPASによって行なわれた。これは1928年4月23日の初封切(ニューヨーク市ヒポドロー劇場)から数えて実に69年振りのものとなったが、アメリカ以外では、今回のNFC上映が世界初となる。

(57分・24fps・35mm・無声・白黒・英語インタータイトル/日本語字幕付き)

'28アメリカ/コロンビア映画 ⑤フランク・R・キャブラ ⑥ハリー・コーン ⑦ロバート・ロード、アーネスト・R・バガノ("Come Back to Aaron") ⑧エルマー・ハリス、ピーター・ミルン ⑨フィリップ・タヌーラ ⑩ロバート・E・リー ⑪アーサー・ロバーツ ⑫ベッシー・ラヴ、ジョニー・ウォーカー、ライオネル・ベルモア、アーネスト・ヒリアード、シドニー・ドルブルック、デイヴィッド・マー



●ピアノ伴奏=ロバート・イズレイル
●各回マイケル・フレンド氏による舞台挨拶を予定

A-2 11/7(金) 6:30pm 11/12(水) 6:30pm

パンドラの箱 Die Büchse der Pandora/Pandora's Box/The Box of Pandora

「春の目覚め」で知られているドイツの作家フランク・ヴェデキント(1846~1918)の戯曲《大地の精》(1893)と《パンドラの箱》(1901)からハンガリー映画出身のラディスラウス・ヴァイダが、映画用に脚本を構成し、G・W・パブスト(1885~1967)が監督した作品で、「懐しの巴里」(1927)についてわが国で公開された「(FC第33号)もの。トニー・レイズは、「ヴェデキントの書いた“ルル”の芝居にみごとに翻案/要約を施したこの作品は、映画が誇るべき、脅迫観念というものの(最も慈悲深く悲劇的な)描写となった。罪の意識を持たない自らの挑発的な性に導かれるように、踊子ルルはベルリンの愛人、崇拜者たち(レスビアン)の伯爵夫人、新聞社の重鎮とその息子など)といった輩と出会い、果てはロンドンの薄汚ない屋根裏に行き着く——そこで彼女が見

つけたのは“切り裂きジャック”の姿を借りた彼女自身のタナトスである。ルイーズ・ブルックスの伝説的な演技とパブストの才気煥発な演出は共にわれわれを魅了してやまない」(The Time Out Film Guide)と書いている。1962年にはオーストリアでトーキー版リメイクも製作されている。英語題名は“Pandora's Box”。

(120分・20fps・35mm・無声・白黒・英語インタータイトル/日本語字幕付き)

'29ドイツ/ネロ・フィルム ⑤G・W・パブスト ⑥シーモア・ネーベンツァール ⑦フランク・ヴェデキント ⑧ラディスラウス・ヴァイダ ⑨ギュンター・クランプ ⑩アンドレイ・アンドレイエフ、ゴットリーブ・ヘッシュ ⑪ルイーズ・ブルックス、フリッツ・コルトナー、フランツ・レデラー、グスタフ・ディースル、アリーツェ・ロベルテ



●ピアノ伴奏=渡辺雄一

A-3 11/8(土) 1:00pm 11/13(木) 6:30pm

非常線の女 Hijosen no Onna/Dragnet Girl/Women on the Firing Line/Cordoned Woman

小津安二郎監督の和製ギャング映画。時子役の田中絹代が、昼は真面目なタイピスト、夜はギャングスター=ジョージ(岡譲二)の情婦に扮している。ある日、ジョージのもとへ与太者志願の若者、宏(三井秀夫)が転がりこんできた。宏にはレコード店に勤める姉の和子(水久保澄子)がいた。弟を心配する和子に会ったジョージは、いつしか彼女に心ひかれていく。時子は一度は激しく嫉妬するが、和子の一途さを知り却って好感をもってしまうのだ。ジョージの忠告を無視し行状を改めない宏は、姉の店から金を盗んでしまう。苦境に陥った和子を救うために、ジョージと時子は、時子につきまとっていた社長の息子を拳銃で脅し金をつかった。二人に殺到する警官隊。あくまでも逃げようとするジョージ、自首して出直すことを主張する時子。ついに時子はジョージの足を撃ち、二人はともに捕えられた。逃げる男の

脚を、愛するがゆえに女が撃つというこの場面にはアメリカ映画、「暗黒街の女」(ウィリアム・ウェルマン監督、1928年)が反映しているという指摘がある。小津がアメリカ映画からの摂取を自ら明らかにしている作品の一つであり、その習熟ぶりは主人公たちが活動するダンス・ホール、ビリヤード、洋式アパートなどの美術からも窺うことができる。

(119分・20fps・35mm・無声・白黒・日本語インタータイトル/英語字幕付き)

'33日本/松竹キネマ ⑤小津安二郎 ⑥ゼームス楨 ⑦池田忠雄 ⑧茂原英朗 ⑨脇田世根一 ⑩石川和雄、栗林実 ⑪田中絹代、岡譲二、水久保澄子、三井秀夫、逢初夢子、高山義郎、加賀見二、南條康雄、谷麗光、竹村信夫、鹿島俊作、西村青児

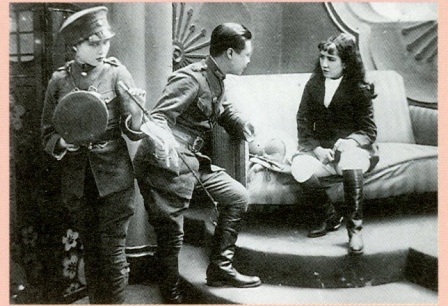


●弁士=澤登翠, 楽団伴奏=カールド・モントーン[11/8]
●ピアノ伴奏=渡辺雄一[11/13]

梅の一枝 一剪梅 /Yihjanmae/A Spray of Plum Blossoms

シェークスピアの喜劇「ヴェローナの二紳士」を下敷きにして、中国映画草創期の女優林楚楚や、人気の若手俳優阮玲玉、金焰を主演に起用した豪華なスター映画。1920年代後期より、中国映画界では西欧に題材やスタイルを求める傾向が見受けられ、そうした作品は「欧化」と呼ばれた。この作品もその流れを汲むもので、インタータイトルは中国語と英語が並記され、登場人物名も中国名と原作そのままの英語名が併用されている。陸軍士官学校を卒業した倫庭は、赴任先の広東で司令官の娘と恋仲になった。一方、倫庭の友人である女たらしの楽徳は倫庭の妹と婚約していたが、彼も広東に赴任することになりそこで司令官の娘に惚れてしまう。楽徳は、倫庭との友情を裏切って、あなたの娘と倫庭は駆け落ちをするつもりだと司令官に告げ口し、すると倫庭は即座に広東から追放された。やがて倫庭は野盗団《一剪梅》の首領となって、弱きを助け強きをくじく義賊となっていた。兄の事件を新聞で知った倫庭の妹は

広東へ駆けつけ、司令官の娘の口から、自分の婚約者のはたらいた悪事を知る。ついには、楽徳率いる軍隊と《一剪梅》団との戦いになるが…。ロビンフッドのような姿に変身する金焰や男装の麗人となる阮玲玉など、コスチューム・プレイも見逃せない。
(120分・24fps・無声・白黒・中国語/英語インタータイトル・日本語字幕付き)
'31中国/聯華影片公司◎ト萬蒼(プー・ワンツァン、英語名Richard Poh)◎羅明佑(ルオ・ミンユー)◎ウィリアム・シェークスピア◎黃漪磋(ホアン・イーツォ)◎黃紹芬(ホアン・シャオフェン)◎魯少飛(ルー・シャオフェイ)、趙扶理(チャオ・フーリー)◎阮玲玉(ロアン・リンユイ)、林楚楚(リン・チューチュー)、王次龍(ワン・ツォロン)、金焰(チン・イェン)、高占非(カオ・チャンフェイ)、陳燕燕(チェン・イェンイェン)、劉継群(リウ・チチュン)、王桂林(ワン・コイリン)、時覺非(シー・チュエフェイ)、周麗麗(チョウ・リーリー)

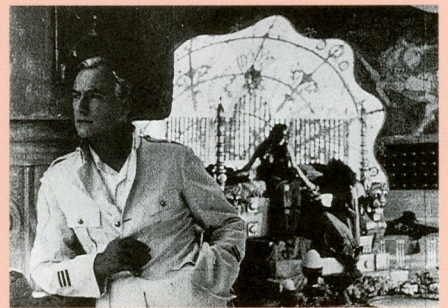


●ピアノ伴奏=柳下美恵

女郎蜘蛛 L'Atlantide

神秘的で官能的な(砂漠の女王=妖婦(キルク))を描いてベストセラーとなったピエール・ブノワの原作(1919年)を最初に映画化しようとしたのはレオン・ポワリエだが、サハラ砂漠でのロケがゴーモン社から拒否されて製作を断念、代わりにジャック・フェデーが出資者を募って自主製作することになった。フェデーは8ヶ月に渡ってアルジェリア・ロケを敢行、総製作費は200万フラン近くに達したが、興行は大ヒットとなって経済的に報われたのみならず、「第一次大戦後、真の意味で成功した最初のフランス映画」(ジャン・ミトリ)という言葉が示すとおり、芸術的にも高い評価を得た。「1920年代を通じてフランス映画の一ジャンルを形成したものに、(アラブもの(コント・アラブ))があり、さらにこの変種として(植民地映画)と呼ぶべき作品が現われることになる」が、そのきっかけとなったのがこの『女郎蜘蛛』であると

される。なお、アンティネア役は出資者たちの意向によって第一次大戦前に世界的な名声を得ていたナビエルコフスカに決まったが、フェデー自身はミュージドラを起用したかったらしい(以上、引用[要旨]はRichard Abel, *French Cinema: The First Wave, 1915-1929*より)。
(170分・18fps・35mm・無声・白黒染色版・英語インタータイトルのみ)
'21フランス/ソシエテ・ジェネラル◎◎ジャック・フェデー◎ピエール・ブノワ◎ジョルジュ・スペクト、アメデ・モラン◎スタシア・ナビエルコフスカ、ジャン・アンジェロ、マリールイーズ・イリブ、ジョルジュ・メルシオール、ポール・フランセスキ、アンドレ・ロアンヌ、ルネ・ロールゼイ、ジェニカ・ミシリオ、アブ=デル=カデル、ベン=アリ



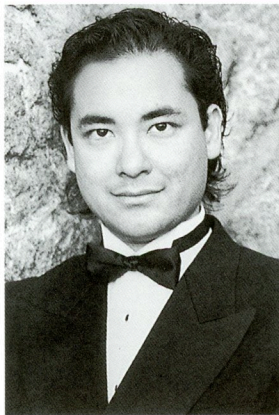
●弁士=澤登翠, ピアノ伴奏=柳下美恵 (途中10分の休憩あり)

◎=監督 ◎=製作 ◎=原作 ◎=脚本・脚色 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=編集 ◎=出演者 ■記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

ピアノ伴奏者紹介

ロバート・イズレイル Robert Israel

無声映画音楽の作曲、研究の分野でアメリカを代表する演奏家、指揮者。「陽気な踊子」復元版を本年1月に映画芸術科学アカデミーが上映した際には、その伴奏音楽を小編成アンサンブル用に作曲・編曲し、また、サンフランシスコ映画祭での上映でも生演奏を行なった。この音楽はソニー・ピクチャーズによるビデオ版発売時に録音もされている。南カリフォルニアを演奏活動の拠点とするが、ヨーロッパ諸国からの招待も多く、ポルデノーネ無声映画祭やポーロニャの復元映画祭(リトヴァート)でも演奏している。ロサンゼルス在住。



渡辺雄一(わたなべ・ゆういち)

作曲家、ピアニスト。国立音楽大学在学中より作曲、オーケストレーションをピエール・ポルト氏に師事。リリカルで郷愁のあるメロディを絶賛される。現在、オーケストラコンサートや様々な演奏活動の他、楽譜出版にも力を注ぎ、30冊に及ぶ著作をまとめている。無声映画伴奏者としても各種イベントに出演し、今回の「シネマの冒険 闇と音楽」でもオリジナル曲を書き下ろしている。



柳下美恵(やなした・みえ)

無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学器楽科(ピアノ専攻)卒業。近藤千穂、坂井玲子各氏に師事。西武百貨店スタジオ200在籍時より無声映画に傾倒し、伴奏者をめざして研鑽を積む。山形国際ドキュメンタリー映画祭を皮切りに、高知県立美術館、アテネ・フランセ文化センターなどで行なわれた「光の生誕 リュミエール!」や、国際交流フォーラムでの「ロシア・ソビエト映画祭」でも伴奏を担当している。



弁士紹介

澤登翠(さわと・みどり)

故松田春翠の門下。法政大学文学部卒。「弁士」というユニークな存在が忘れられていく時代に、あえてその道を志した戦後派である。定期的開催される「無声映画鑑賞会」をはじめとする様々な上映会や最近では海外の映画祭などでも活躍している。現代劇、時代劇、洋画と幅広いレパートリーを持ち、また映画評論の執筆や映画出演など、その積極的な活動を通して、「伝統話芸・活弁」を支える貴重な存在となっている。1990年、日本映画ペンクラブ賞、'95年、日本映画批評家大賞ゴールデン・グローリー賞を各々受賞。



共演楽団紹介

カラード・モトーン

(指揮=湯浅丈一 ピアノ=村岡貞彦 ヴァイオリン=吉田美晴 フルート=鈴木真紀子 パーカッション=足立克己)

無声映画の音楽(生演奏)を担当する西洋楽器と和楽器とを混成した専属合奏隊。'87年、東京国際映画祭でD.W.グリフィス監督作品「国民の創生」の音楽製作、演奏を担当し好評を得て以来、日本独特の活動写真の音楽を地道に研究、澤登翠とともに各地で公演活動中。NFCでの共演も3度目となる。

マイケル・フレンド講演会 「映画保存とデジタル技術:来るべきシネマの千年王国」

Lecture by Michael Friend (Director, Academy Film Archive):
“Preserving the Cinema For the Next Millennium”

期日: 11月1日(土)午後1時~4時(予定) / 会場: 大ホール

アカデミー・フィルム・アーカイヴ所長マイケル・フレンド氏が、映画保存とデジタル技術の関係について考察します。アメリカ映画「陽気な踊子」のフルデジタル復元に際し、アーキヴィストの立場から中心的な役割を担った氏の話は、伝統的なフィルム信奉者にも、未来指向のデジタル技術者にも刺激的な議論の基礎を提供することでしょう。

- 開場: 午後12時30分
- 入場無料(先着順, 定員300名になり次第締切)
- 使用言語: 英語/日本語(同時通訳あり)

講師からのメッセージ

追悼の映画, 追憶の映画—— 私たちのかつて知っていた映画(シネマ)は死んだ、とニューヨーク・タイムズ・マガジンに寄せた記事の中で、スーザン・ソングは示唆しています。その誕生から百年、映画は「20世紀の芸術形態」としての地位を失い、私たちもまた、現代における唯一無比の視覚芸術とみなすことはなくなりました。映画に加えビデオ、あるいはCGなどの電子芸術によって高度に階層化し多様化した「映像の世界」が、私たちの視覚環境を形成しているのです。

だからこそ、映画の時代が完全に終わりを告げる前に、「映画とは何か?」「映画保存における真の問題点は何か?」「それらの解決策は何か?」といった問いに答えを見つけ出さなければならないのです。映画は固有の美学とその変遷、そして技術的発達の諸相によって定義づけられています。しかしながら、競合する“動く映像”の様々な形態(テレビ、ビデオ、電子メディア)の出現とともに、映画の特性は、“媒体への非依存(platform independence)”というイデオロギーのもとに忘れ去られ、隠蔽されてしまいました。映像=ソフトウェアという概念は、あたかも靈魂のようにいかなるハードウェア環境も表示システムをも飛び越えて伝播し、映画の持つはかなくも固有の質感を覆い尽くしてしまうのです。事ここに至って私たちは、映像の持つすべての質感、つまり他の媒体への変換時に欠落してしまうような質感をも含めて保護するために、映画を映画として保存することの必要性を認識しなければならなくなったのです。

映画保存運動の歴史—— 体系的な映画保存へむけての最初の呼びかけは1898年になされています。また生フィルムの経年劣化やフィルム上のイメージ消失は1915年には早くも技術的な問題として認識されていました。1920年代末までには映画産業を有する多くの国々で、特に重要な映画作品の公共機関による収集を求めるフィルム・アーカイヴ運動が起きていますが、当時の運動は、映画に芸術としての地位を確立させること、そして映画が生き残っていくための組織的な取組みの方法を作り上げることを、その努力目標にしていました。一方、1960年代末に沸き起こったフィルム・アーカイヴ運動のリバイバルは、映画保存の当面する問題が技術上の問題であるとの認識のうえに起こったものでした。そこで取り上げられたのは、とりわけ可燃性(ナイトレート)フィルムの劣化であり、その結果として無声映画時代の作品が失われていくことだったのです。そして時を経て今日、私たちは



過去40年に作られた作品の方が、映画史初期の作品の保存よりも大きな問題をはらんでいることを認めざるを得ません。1950年代以降に失われた作品はそれ以前に比べると決定的に少ないとはいえ、あまたの技術的な問題に加えて、現在私たちは映像の質感(イメージ・クオリティ)の喪失といういっそうやっかいな問題に直面しているわけです。その結果、映画保存の主眼は単純な作品収集から、映画映像の最も精緻な特性を保存復元するという困難な作業へと移行して来ているのです。

映画保存の新しい道具/希望と不安—— 19世紀および20世紀に作り出されたメディアを保存するのが難しい理由は、ごく最近までそうした媒体にまつわる深刻な技術的・哲学的諸問題が真っ当には理解されなかったことにあります。そして私たちは今、アナログの芸術形態である映画の保存にデジタル技術を援用しようとしています。映画の特性をあますことなく捉え、なおかつ真正な映像と年月がフィルムに加えた傷とを分離したうえで、また元の媒体に再変換し、その作品が公開された当時のレベルにまで復元するための機器が開発されなければなりません。そのためには、映画の持つ歴史的要素とその映像の特性に関する深い知識と理解が要求されるのです。

この講演では、今日までの映画保存技術の発展を、歴史的・美学的・哲学的問題に焦点を当てながら辿っていくつもりです。そしてデジタル映画復元の手法についても、「陽気な踊子」をはじめとするいくつかの実例を35ミリの参考フィルムをお見せしながら言及したいと思っています。

マイケル・フレンド氏の略歴

アカデミー・フィルム・アーカイヴ所長。1974年、カリフォルニア大学バークレー校卒業後、同大ロサンゼルス校(UCLA)演劇映画テレビ学部助手の職につきながら、'78年、同学部の映画テレビ史・理論評論学コースの修士号を取得。パリ大学に学んだ後、'81年、UCLAの前述コース博士課程を終了。西海岸の映画テレビ界、学会でのさまざまなコンサルタント業務を経て、'86年から'90年まで、アメリカン・フィルム・インスティテュート(AFI)付属・全米映画テレビ保存センター(NCFVP)保存部門次長として、その映画保存プログラム、全米映像データベース(NAMID)プロジェクト、AFIカタログの作成等を指導した。ソニー/コロンビア、アップル・コンピュータ、MCA/ユニバーサル等の映像保存関係コンサルタントを経て、'91年から現職。アカデミー・フィルム・アーカイヴの代表として、また、個人としてFIAFのさまざまな活動にも積極的に参加している。なお、映画保存とデジタル技術に関する氏の先駆的な論文、「Film/Digital/Film」は、NFCニューズレター第7号に、「映画保存の近未来:フィルムとデジタルの関係」として訳出されている。1950年生まれ。

ポスターで見る
「無声時代後期のソビエト映画」

Soviet Film Posters in the Late Silent Era

11月4日(火) - 11月15日(土)

11月25日(火) - 12月25日(木)

1月6日(火) - 1月31日(土)

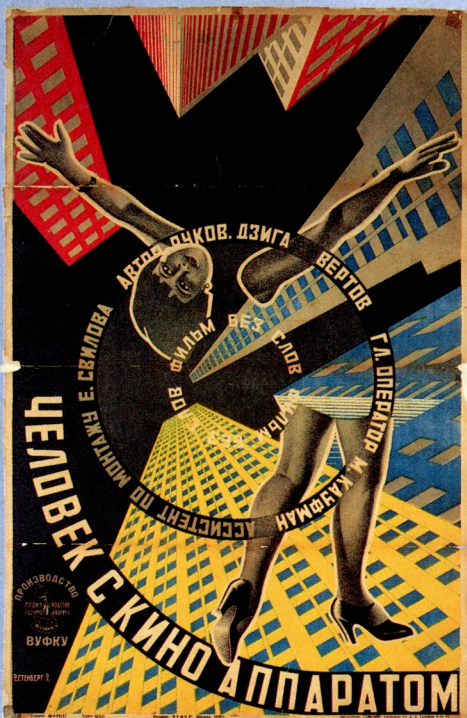
袋一平氏(1897年~1971年)は、映画をはじめ広くソビエト文化を研究し紹介したことで知られていますが、ソビエトの視察から帰った氏を中心に1930年には大規模なソビエト映画の展覧会が開催されました。この時集められた石版映画ポスターの大部分は、現在フィルムセンターで保存管理されており、映画資料コレクションの重要な一部をなしています。本展では、補修作業を終えたおよそ百数十点の中から、「母」(1926年)や「十月」(1927年)、「カメラを持った男」(1929年)といった著名な作品をはじめ、無声時代後期に製作されたさまざまな映画のポスターを約60点選んで展示します。そこには、ロシア・アヴァンギャルドの影響を色濃く反映した迫力ある図柄や大胆な色彩表現の作品と共に、アヴァンギャルドそのものが変化していく様を反映したポスター群もあり、ジャンルを横断した20世紀前半の社会と芸術運動と映画とのある種、運命的な結び付きを垣間見せてくれることでしょう。



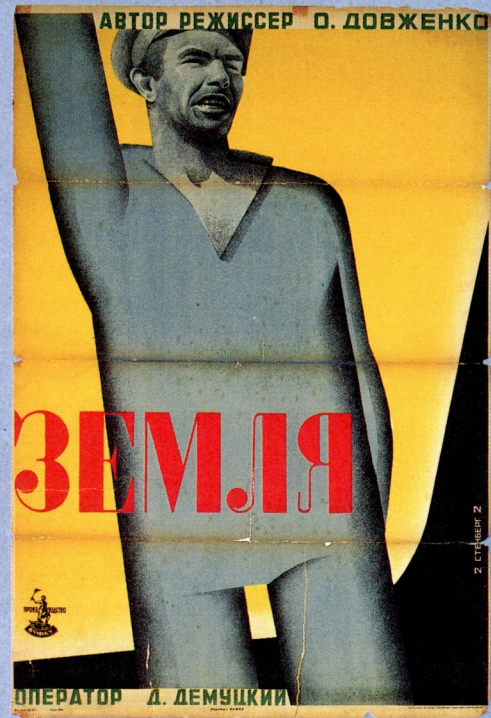
メアリー・ピックフォードの接吻(セルゲイ・コマロフ監督、1927年)



十月(セルゲイ・エイゼンシュテイン、グレゴリー・アレクサンドロフ監督、1927年)



カメラを持った男(シガ・ヴェルトフ監督、1929年)



大地(アレクサンドル・ドゥジェンコ監督、1930年)

日	火	水	木	金	土
26 27	休館 28	休館 29	休館 30	休館 31	1:00pm マイケル・フレンド 講演会 Lecture by Michael Friend
2 3	A-1 6:30pm 陽気な踊子 The Matinee Idol (57分・24fps・英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ロバート・イズレイル	A-1 6:30pm 陽気な踊子 The Matinee Idol (57分・24fps・英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ロバート・イズレイル	A-1 6:30pm 陽気な踊子 The Matinee Idol (57分・24fps・英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ロバート・イズレイル	A-2 6:30pm パンドラの箱 Die Büchse der Pandora (120分・20fps・英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-3 1:00pm 非常線の女 Dagnet Girl (119分・20fps・英語字幕付き) 弁士=澤登翠 楽団=カラード・モノー
9 10	A-4 6:30pm 梅の一枝 A Spray of Plum Blossoms (120分・24fps・中国語/英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=柳下美恵	A-2 6:30pm パンドラの箱 Die Büchse der Pandora (120分・20fps・英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-3 6:30pm 非常線の女 Dagnet Girl (119分・20fps・英語字幕付き) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-4 6:30pm 梅の一枝 A Spray of Plum Blossoms (120分・24fps・中国語/英語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=柳下美恵	A-5 1:00pm 女郎蜘蛛 L'Atlantide (170分・18fps・英語インタータイトル) 弁士=澤登翠 ピアノ伴奏=柳下美恵

図書室カレンダー

赤は休室日

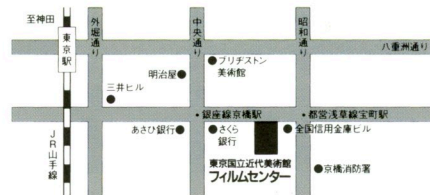
11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104東京都中央区京橋3-7-6
 営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口9より徒歩5分
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：NTTハローダイヤル 03-3272-8600
 東京国立近代美術館ホームページ：<http://www.momat.go.jp/>